



「見たり、聞いたり、探ったり」No.253

通算 No.404

青 木 行 雄

ビキニ被曝を今につたえる 東京都江東区夢の島^{だいごふくりゅうまる}「第五福竜丸」

太平洋・マーシャル諸島のビキニ環礁^{かんしょう}で、マグロ漁船「第五福竜丸」が被曝^{ひばく}してから67年にあたる3月1日、核兵器廃絶を願う催しが各地で開かれた。核兵器禁止条約の2021年1月発効後、初めて迎えた「ビキニデー」、「核なき世界」の実現を訴える声が相次いだと各紙に報道された。

「ビキニデー」は毎年、第五福竜丸の地元・静岡県焼津市で集会が開かれてきたが、コロナ禍の今年はオンライン開催となったという。広島や長崎からもメッセージが寄せられ、田上富久・長崎市長は「条約を育て、実効性を高めるために世論の醸成が重要」と語ったと記されていた。

焼津市では同日、1954年（昭和29）事件半年後に亡くなった第五福竜丸の無線長・久保山愛吉さんを悼む墓前祭が開かれた。約50人が参列されたという。

第五福竜丸平和協会代表理事の山本義彦・静岡大名誉教授は「核なき世界の実現と核被害者の根絶をめざしてみなさんと奮闘する」と語った。日本が条約に参加していないことに触れ、唯一被爆国である日本国こそ核兵器禁止条約を提唱すべきだと訴えたという。

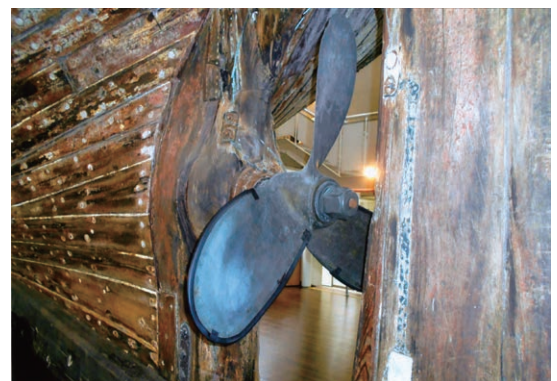
米国が核実験を繰り返したマーシャル諸島は3月1日を「核被害者追悼記念日」と定められている。



第五福竜丸展示館の建物、夢の島公園の中にある



展示館の中にある木造船。かなり大きな船であり、下から見ると大きくて圧倒される。
長さ30メートル。重さ140トン



第五福竜丸のスクリュー本物、展示館の中、船体についたまま見られる。

核をめぐる主な動向

1946年(昭和21) 7月	米国がマーシャル諸島で1回目の核実験を行う
1954年(昭和29) 3月1日	「第五福竜丸」が米国の水爆実験で被曝した日
同年(昭和29) 9月	無線長の久保山愛吉さんが40歳で死去
1955年(昭和30) 8月	第一回原水爆禁止世界大会が広島で開かれる
2007年(平成19) 4月	核兵器廃絶国際キャンペーン(ICAN) 設立
2017年(平成29) 7月	核兵器禁止条約が国連で採択
2021年(令和3) 1月	核兵器禁止条約が発効

こんなわけで、我が新木場の隣地、夢の島にある「第五福竜丸」を保存している「展示館」に行き、詳しく説明を受け勉強した。

第五福竜丸建造74年の航跡

この第五福竜丸は、1947年(昭和22) 3月に進水(完成)した木造船として建造され今年で74年がたった。人間でいえば70歳古稀から4年を超え、木造の船がこのように長く保存されることは極めて稀である。

この船は、カツオ船「第七事代丸」^{ことしろまる}として誕生する、のちにマグロ延縄船「第五福竜丸」^{はえなわ}となり、水爆実験に被曝、放射能検査ののちに水産大学の練習船「はやぶさ丸」として使われ廃船を迎えた。その後、原水爆のない世界を願う市民の声・保存運動によりここ第五福竜丸展示館に納められて今年で44年を超えた。

第二次世界大戦後、大変な物不足、食糧難の時代、動物性タンパク源の主力は魚であった。当時、第五福竜丸と同じような木造の漁船がたくさん建造されて、遠く太平洋の赤道海域まで出漁していた。今はこのような船での遠洋漁業はおこなわれていないし、木造の建造はしていないので、希少な木造船の資料としての第五福竜丸は産業遺産ともいえる。

またこの第五福竜丸の被曝は他の多くの漁船・船舶にも被害を受け、放射能を含む降雨など影響し、原水爆の脅威^{きょうい}、放射能汚染への不安を世界の人々に抱かせるきつ



太平洋マーシャル諸島、ビキニ環礁



被曝から6か月後になくられた久保山愛吉氏の写真。当時乗組員は23人の若い漁師達であった。



放置されていた時の第五福竜丸

かけになった。

第五福竜丸が夢の島に放置され、市民の中から“沈めてよいか第五福竜丸”の声が広がり、東京都はこれを受け止め「原水爆による惨禍が再び起こらないようにという願いをこめて」展示館を建て第五福竜丸を保存・公開したのである。

もう少し詳しく船の生い立ちから夢の島に来るまでを記してみたい。

カツオ船として「第七事代丸^{ことしろまる}」の名で1947年（昭和22）戦後2年目の3月20日、和歌山県古座町現在の串本町、古座造船所にて完成・進水した。

この船の木材と縁起について。

この古座からほど近い三重県・七里御浜から木材は伐り出されたが、船の背骨・竜骨には縁起が良いとされるお寺のマツの木を使用し、他には他のマツ、スギ、ヒノキをして堅牢^{けんろう}さが必要な部分にはケヤキを使っているという。

このカツオ船第七事代丸の操業は順調で、南はフィリピン、台湾、沖縄から、北はカムチャッカ半島に至る範囲で操業し、全国でもトップクラスの水揚げを記録したという。

その後事情があって、1951年（昭和26）静岡県清水市、金指造船所にてマグロ船に改造された。1952年（昭和27）サンフランシスコ講和条約発効とともに、マッカーサーラインが撤廃され、「沿岸から沖合へ、沖合から遠洋へ」を合言葉に、遠洋マグロ漁の時代へと変って行った。1953年（昭和28）3月、静岡県焼津市の西川角市氏に当時の金、1200万円で買い取られ、ここで船名「第五福竜丸」となったようだ。

この船が焼津のマグロ船として活躍したのは、わずか一年足らずであった。

1954年（昭和29）3月1日、太平洋・マーシャル諸島近くにて、運命の被曝^{ひばく}を受けることになったのである。

この被曝により他船にない、歴史的いばらの運命が始まることになった。

この第五福竜丸の被曝が発覚すると、地元焼津では「危険な船」ということで市場から離れたところに繋留^{けいりゅう}するよう声があがり、港には立ち入りが禁止された。

アメリカ政府は横須賀基地へ曳航^{えいこう}して除染のうえ「処分」として申し出があったが、日本の科学者が貴重な資料として保管すべきと主張し、国が当時の金で100万円で買い上げたという。

1954年（昭和29）6月5日、研究上必要な船上の品々はトラック3台で東京大学へ移送、船は8月22日、海上保安庁の巡視船「しきね」で東京港に回航され品川運河に錨を下ろすことになった。

そして東京水産大学（現・東京海洋大学）の所属船となった第五福竜丸は、同大学の教授らが船上で金魚を飼



核実験の爆景、展示場の中で写真が見られるこの水爆は広島原爆の1千倍の爆発力で巨大なキノコ雲がおこり海を汚染した。

い、朝顔を栽培するなど生物実験をしながら放射能の測定を行った。

1956年(昭和31)5月17日勝岡造船所で放射能測定し安全性を確認、三重県伊勢市大湊の造船所で大改造されることになった。そしてその年の8月11日「はやぶさ丸」との船名で、東京水産大学練習船としてあらたにスタートすることになった。

1967年(昭和42)3月、「はやぶさ丸」は廃船処分となり、建造から20年、練習船となってから11年がたっていた。船体は屑化^{くずか}することを条件に解体業者に払い下げられ、エンジンや機械類などは売り払われ、船体は業者を転々として東京都のゴミ埋立処分場であった第14号埋立地(夢の島)に繋留・放置された、船体は浸水し傾き、みじめに沈みかけていた。

1967(昭和42)6月にNHKが「死の灰あびた第五福竜丸解体」と報じた。

その後、「沈めてよいか第五福竜丸」という投書や、保存しようという世論が広がり始め、報道機関も相次いで第五福竜丸のあわれな姿を取り上げ、保存の取り組みが始まっていった。当時、夢の島は船の墓場とも呼ばれていた。沈没しかけた船体は何船もあった。私も見た事があるが、業界の先輩方は見られた人も多いと思う。

第14号埋立地(夢の島)

夢の島はかつて「第14号埋立地」と呼ばれ、東京中の一般家庭から出されたゴミなどが集められたゴミ処理場であった。1957年(昭和32)に着工し1968年(昭和43)に埋め立てが終了したが、大量のハエやネズミなどが発生、周辺住民にも悪臭などの被害を引き起こし社会問題となった。1971年(昭和46)には江東区へのゴミの搬入を巡って東京ゴミ戦争と呼ばれる事態を発生した経緯もある。

第五福竜丸保存運動の広がり

1969年(昭和44)4月、科学者や文学者、被爆者などの方々が保存を全国に呼びかけた。当時の美濃部亮吉知事も保存の呼びかけに参加した。そして7月には第五福竜丸保存委員会が発足し、保存の取り組みが具体化した。さらに運動は国際的にも広がっていった。

そして、夢の島が都立公園へと整備されるなかで、1972年(昭和47)1月から船体を陸上に固定する工事が始められ、1974年(昭和49)9月には東京都により展示館建設が決定され、翌2月、船体は都に寄贈された。これにより第五福竜丸が恒久的に保存されることに決定したのである。都民の声と全国の取り組みがこの船を守ったのである。そして1976年(昭和51)6月10日、約10年間の保存運動の末、第五福竜



活躍中の第五福竜丸の船姿



夢の島に捨てられた時の船体、まだ夢の島が整備されていない時の写真である

丸展示館が開館した。

日本列島の南東、世界一に広い太平洋のマーシャル諸島にあるビキニ環礁で、運悪く被曝を受けた「第五福竜丸」はいろんな運命をたどりながら、いろいろの方にすてられたり、助けられたりして、最終的にはこの夢の島で安住の運命をたどることになった。

この展示館は1976年（昭和51）6月10日に開館し、45年が経過した。

館内には第五福竜丸船体実物、水爆実験の被害、乗組員の病状、マグロ騒動、放射能雨、原水爆反対の運動、太平洋の核汚染状況、日米政府による事件の決着、マーシャル諸島の核被害、世界の核実験被害、核実験・核開発年表などの展示がある。展示館前ひろばには久保山愛吉記念碑、第五福竜丸のエンジン、マグロ塚石碑もある。

第五福竜丸展示館は東京都が建設し、（公財）第五福竜丸平和協会が都からの委託で運営している。

入場無料 月曜日休館 03-3521-8494

開館時間 9：30～16：00

東京都江東区夢の島2-1-1 夢の島公園内

参考資料

朝日新聞

（公財）第五福竜丸平和協会パンフレット



展示館の建設中で、中に入れるために引き込み中の船体の姿

令和3年3月14日記